



“Pure CS” Project Photo Letter



No. 5, 22. November, 2018

11月に入りエイヤワディー地域の収穫作業も佳境に入ってきました。CS生産圃場でも収穫前の圃場審査で普及員は多忙を極めていますが、一方、北部のシュエボー県はようやく出穂期が始まるところで、こちらの普及員も圃場審査で東奔西走しています。プロジェクトもCS種子の品質を左右する最後の重要な時期であることから、連日フル回転の活動が続いています。

普及員技術研修：圃場審査と並び発芽率や赤米混入の有無等の種子検査は品質向上の要です。4回目を迎えた研修は、パテイン、ヒンタダ及びシュエボーにおいて、圃場審査実習と共に収穫調整後に袋詰めされた種子から種子検査所に送付する種子サンプルを採る方法、及び水分含量の測定方法の実習を行いました。また、パテインとヒンタダは今雨期最後の研修であることから、参加者一人一人に修了証書が手渡されました。（写真：左から、シュエボー・圃場審査、ヒンタダ・水分含量測定、ヒンタダ・修了証書授与）



ステークホルダー会議：ミャウンミヤ郡における3回目の会議は先月のパテインとヒンタダに引き続き、精米所にCSの品質とCSを使用したコメの品質の高さを理解してもらおうと、農家のCS生産圃場及びコメ生産圃場の視察を行いました。参加した精米業者は一応にCS使用の利点を直に確認したことで、今雨期作のCSの買付と配布を確約してくれました。（写真：左から、CS利用コメ生産圃場視察、精米業者による籾の質の確認、ステークホルダー同士の意見交換会）



その他の活動：写真左から、① 11月2日、首都ネピドー農業畜産灌漑省本省でPIC会議を開催しました。会議では出席者全員で今次活動実績と成果及び次期活動計画を確認するとともに、プロジェクトによる技術移転の成果を如何にCS生産の現場に還元するかについて意見交換が行われました。② 種子選別機3台の購入・据付け（12月中・下旬予定）に先立ち、エイヤワディー地域政府予算により据付け場所（3カ所）の改修・電源工事が行われています。③ エイヤワディー地域の各地でコメの収穫が行われていますが、乾燥方法の適正性を調査するために、種子及び籾米の水分含量の抜打ち検査を行いました。



エイヤワディー地域は頭を垂れた稲穂で埋め尽くされ、ミャンマー人の憧れである黄金の世界が広がっています。今年も豊作でありますように。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設しましたのでご覧ください。（編集委）